

2021 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	周産期グリーフケアはちどりプロジェクト
活動テーマ	妊娠中・産後に赤ちゃんを亡くしたご遺族に関わる医療者向けグリーフケア啓発活動



2021 年度は、医療者を対象とした周産期グリーフケア啓発活動を目的として取り組んだ。周産期グリーフケアはちどりプロジェクトが、当事者と医療者の対等な連携を示しながら橋渡し役となり、流産・死産・新生児死等で深い悲しみの中にある女性とご家族の実態を知ってもらうことを大切に活動に取り組んできた。

関西圏域の医療施設や各自治体担当者（母子保健課担当保健師等）から、グリーフケア研修会依頼をいただき、研修会を企画・担当した。研修会を受講した医療者からは、当事者の壮絶な悲しみの実態を「初めて知った」と感想をいただくことが多い。知識にとらわれず、感じ・考えてもらえるように心を込めて啓発活動に取り組んだ。

その他にも、当事者の声を医療・行政・社会へ届けるために、当事者を対象とした大規模アンケート調査を企画・実施した。2021 年 5 月 2 日～6 月 27 日に実施し、延べ 897 件の切実な実態を表す声が届いた。目標は、当事者の声を国に届け、支援の拡充を要望することであった。結果として、2022 年 2 月 8 日、要望書とともに 897 件の当事者の声をまとめた冊子、および支援者に役立つ手引を作成し、厚生労働佐藤副大臣に手渡しで提出した。理解がなく傷つけられる当事者がまだまだ多い現状に課題を感じる日々であるため、ここから引き続き地道に周産期グリーフケアに対する理解が広がるように活動に取り組んでいきたいと考える。一足飛びにはいかなくとも、受講者アンケートを拝見する限り、多くの方が「支援が届いていない現状から課題を感じ、何とかしたい」と気づきを得ていた。次年度も引き続き、医療施設および各自治体職員に伝えていく活動を継続していく。当事者と医療者がともに過ごすカフェの開催もコロナ禍で工夫し開催できた。こちらも継続して取り組んでいきたい。